

# 農業



平成31年4月号  
会誌 No. 1650

## 目次

### 巻頭言

地域経済を支える東京農大生……………高野 克己 3

### 論 壇

子供たちを追い込む現代社会と農村の意義……………祖田 修 4

### 地域セミナー 栃木

若い世代がつなぐこれからの農業…………… 6

#### 基調講演

海外で考える農のころ……………夏秋 啓子 6

パネルディスカッション…………… 21

### 表彰農家訪問

ミカン栽培の先駆的取組による安定経営と  
地域果樹農業への貢献……………福元 將志 28  
－八並秀敏氏を長崎県佐世保市に訪ねて－

### 研究の最前線

もち麦新品種「はねうまもち」を利用した高収益大麦作……………長嶺 敬 37

### 農業・農村の現場から

東日本大震災復興に向け研究成果を活かした地域づくり (5)  
福島県における夏秋小ギク電照栽培の取組……………鈴木詩帆里 46  
－電照栽培によって被災地の復興と産地の発展を目指す－

世界の農業は今

中国青海省チベット高原における麦類遺伝資源の現状……………笹沼 恒男 52

私の経営と志

このブランドをいつまでも……………緒方あゆみ 57

表彰

平成30年度大日本農会賞の受賞者…………… 59

付：大日本農会と東京農業大学の関係

第58回全国青年農業者会議

プロジェクト発表・農業青年の意見発表等受賞者…………… 63

統計情報

平成30年産ソバ（乾燥子実）の作付面積及び収穫量…………… 65

農政情報

大日本農会だより…………… 67

編集部から…………… 68

ミニ情報

気候変動に対応する農業技術国際シンポジウム…………… 27

平成30年度「飼料用米活用畜産物ブランド日本一」の受賞者…………… 36

表紙写真説明

阿蘇高菜の収穫（熊本県阿蘇市役犬原<sup>あそしやくいんばる</sup>）

阿蘇五岳は、涅槃像<sup>ねはんぞう</sup>の頭にあたる根子岳（1,423m）、胸の部分の高岳（1,592m）、おへその中岳（1,523m）、ひざから脚の部分にあたる烏帽子岳（1,337m）、杵島岳（1,321m）といった五つの山からなり、お釈迦様が仰向けに寝ている姿に似ていることから「阿蘇の涅槃像」と呼ばれています。

その麓の阿蘇市では3月下旬から4月にかけて特産の「阿蘇高菜」が収穫されます。阿蘇高菜は阿蘇地域で代々、自家採種され、受け継がれてきた、とても貴重な高菜です。水田裏作として10月中旬に播種され、冬季間の低温の中で少しずつ生育し、春先に暖かくなって一斉に抽だいしてくるので、20～30cm程度に伸びてから柔らかい部分を手で折り採り収穫します。

平成28年（2016年）4月に発生した熊本地震では阿蘇地域は大きな被害があり、いまだ多くの傷跡が残っていますが、地域の人々が復興に向けて頑張っています。

（阿蘇さとう農園 佐藤 智香）